



TITLE:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 32

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 32. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1955, 32: 1-4

ISSUE DATE:

1955-05-04

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186845>

RIGHT:

録 事

月報もこれで第4年度に入ることになる。

今月は地方選挙最後の月で、観光客の方にも影響すると思われるが、
か、反計に入館者は3月よりも多くて、4万人をはるかに越す有様であった。
これはかつてないことである。

29日の町長選挙に南和と委員が再び當選されて、これからまた4年間御苦勞を
願うこととなった。瀬戸部よりの委員推薦の件は、新しい部長の選出をきめる
部会が今月中に開かれなかったため、のびのびになっているが、早晚本会に
対して申入れがあると思われる。

宮地会長は予定の如く、4月6日羽田発のAir Franceでローマにたた
れた。IUBSの会議に引きつづき「國際臨海実験所会誌」に東洋を代表
して出席、活躍された模様である。

前号でお知らせしたように、水族館の公開時間は4月1日より館の入口
に掲示し、そのように実施することにした。今の所支障はおこらない模様
である。

水族館の公衆便所は、相当な容積の溜槽をもっているが、昨年末の
観客激増によって溜った糞尿が深さ/米にも及ぶ量となったので、この
機会に町指定の汲取業者に一応全部処理させた上で、番所山植物園側
との共同の下に、/年間汲取と契約することにした。

海水取入口の修理は、B導水管破損部へのヒューム管増設と捨石布
置(災害復旧費)とA導水管の漏水個所修理(水族館費支弁)が春の大
潮時を期しておこなわれ、一応満足すべき状態になった。

観客の激増に伴ない、お客の呼び出しや、番所山植物園との連絡、
或は団体客に対する館内での説明には、普通の声では聞かれないの
で、遂に南水槽室内部と陳列室の西出口とに拡声器を取りつけることに
した。これは同時に館内も閑静時はラヂオが聞かれるような装置にな
っている。

3/24の両日実験所取食と共に2班にわかれ館員一同潮岬にリフレー
ションを実施、/年間の労苦を慰やした。

本年度より月報記載の経理項目も、次のように新しい様式に基いて記
される

業 務 概 況

◎ 4月の入場者数

区 分	水族館発売数	明光バス発売数	合 計
大 人	10,042 ^人	21,392 ^人	31,434 ^人
小 人	904	421	1,325
団 体	8,440	—	8,440
合 計	19,386	21,813	41,199
無料入場者			58

◎ 4月の事業収入

観覧券売上金 776,742.

魚類排下 600.

3月よりの繰越 82,433

計 859,775.

◎ 4月の支出

水族館経費

費 目	金 額	備 考
人件費	49,852	
備品費	2,040	
消耗費	13,160	
業務費	28,320	
維持費	3,245	
其他諸経費	41,636	
積立金	129,457	全収入の1/6, 其他
合 計	267,710	

実験所経費 支出皆無

博物館経費

費 目	金 額	備 考
人件費	4,200	
消耗費	35	
合 計	4,235	

支 出 合 計

水族館経費 267,710

実験所経費 —

博物館経費 4,235

計 271,945

4月末現在高 587,830.

◎ 前年度との比較

	1954	1955	増 減
入場者数	37171	41199	+ 4028
売上金	697,118	776,742	+ 79,624
支出金	684,371	271,945	- 412,426

水族館記事

- ◎ 今月末でエビアミのシーズンを終るので、この冬迄の自然死亡を考慮して、イセエビ 3貫目を補給した。
- ◎ イセエビに代って、4月はセエビが多く獲れて、水槽に入る。22日あまり大きくはないが ニシキエビ が2匹入槽した。この他、現在水槽に飼っているものに カノイセエビ 4匹、シマイセエビ 2匹いる。
- ◎ 初春の水槽を賑わした アカアシガニ は、7日に1匹、10日に1匹死亡、これで全部水槽から姿を消したことになる。
- ◎ 今月の始め2匹で3貫目もある大きな マダイ が入ったが、惜しくも21日に1匹、27日に1匹が死亡した。獲れてすぐ本水槽に入れたのが悪かつたらしい。
- ◎ かねてよりえっかわれていた エビスダイ の1匹が16日に遂に惜しくも死亡した。これは1953年1月20日に入槽したもので、丁度約2年3ヶ月間生存していたことになる。“やもめ”(?) となった残りの1匹が淋しそうであるが、相棒は仲々補給もつかないようだ。
- ◎ No. 27の水槽にいてあった珍しい ヒゲグウ が23日に死亡、これに代って チョウセンバカマ と ヒメ が各々2匹宛入った。

博物館記事

- ◎ 九州西方の鳥島沖珊瑚漁場で採れた モモイロサンゴ の“いき木”1個長崎水試の星野 遷技官より寄贈をうけた。(4月8日)

来 訪 録

- 4月8日、長崎縣水産部福永 瑛、長崎魚市株式会社専務川瀬 順司氏 来館 (縣営水族館設置計画のため) Mr.
- 4月10日、泰国海洋水産試験所長 サワン チャレンボン氏 (Swarnge Charernphon) 来館 (同国水産試験所付設の水族館設置計画のため)

4月26日 神戸市交通局大内 茂、大島好武氏 来館 (市営の水族館を
須磨海岸に設けるため)

資 料

◎ 4月の気象

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数 (17)	6	6	5
気 温 (℃)	$\frac{11.4 - 19.5}{15.7}$	$\frac{12.6 - 21.7}{17.9}$	$\frac{15.3 - 18.9}{17.1}$
水 温 (℃)	$\frac{15.0 - 18.8}{16.4}$	$\frac{16.6 - 19.5}{18.6}$	$\frac{17.2 - 19.3}{18.6}$
比 重	$\frac{25.5 - 25.7}{25.6}$	$\frac{23.6 - 26.1}{25.1}$	$\frac{25.0 - 25.5}{25.2}$

但し { 気温は南水槽室
水温 } は No. 25 水槽 で 10 時に測定
比重

昭和30年5月4日 発行 (No. 32)

編集兼
発行人

内 海 富 士 夫

発行所

瀬戸臨海実験所振興会
和歌山縣 白浜町
瀬戸臨海実験所内
(電話 白浜温泉 515)